

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	特定非営利活動法人だいき北田気事業所			
○保護者評価実施期間	令和7年3月24日		～	令和7年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間			～	令和7年3月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ベテラン保育士がそろっている。活動内容が、療育から余暇活動まで 多種多様である。一人ひとりの特性に応じた活動を用意している。こどもの特性を考えて臨機応変に対応することができる。排泄や食事、更衣などの直接介助もスムーズにできる。	様々な教材を用意して、一人ひとりの能力に合わせた支援を行っている。集団で行う活動と個別に行う活動の時間配分や内容は、当日の事前打ち合わせによって決めるようにしている。活動に積極的に取り組めるような声かけをし、取り組みに消極的な時は本人の気持ちを尊重している。季節の変化が楽しめるように壁面飾りなどを工夫している。	保育士以外の支援員の質の向上をはかる。教材の工夫とスキルの向上に向けて、日ごろから職員同士で情報交換を行う。
2	家族が協力的である。家族と職員間で、その家庭に合わせた信頼関係を築くことができる。地域の特性から、家庭の様子がわかりやすく関わり方が工夫できる。保護者全員が特定非営利活動法人だいきの会員になっているため、通信やお知らせなどを通して情報伝達がしやすい。	家庭訪問や電話相談など、情報交換する機会を多く持つようになっている。家族と比較的連絡を取りやすい時間を把握して、緊急の時以外はその時間に合わせて連絡を取り合っている。家庭に合わせて、連絡の回数なども調整している。	家族会や家族の研修会などを開催したり、広報誌やお知らせなどを通して情報提供を行う。職員に声をかけやすい環境を整える。
3	地域に溶け込んだ活動をすることができる。地域の施設の利用やイベントへの参加ができる。コミセン・体育館・茶の里公園・おやき学校などの利用や、七夕・ひな祭り・芸術祭の見学と参加など、地元ならではの活動ができる。	町の芸術祭に、日ごろ取り組んでいる作品を発表している。長期間かけて作成したり、友だちと協力して作成するなど、大がかりな作品を製作して出展している。家族にも作品を見に行ってもらい、こどもたちの活動に理解を深めてもらう努力をしている。	地域ボランティアの活用を広げる。地域の児童施設や介護施設などと交流する機会を設ける。知り合いなどからの情報提供を通して、ユニークな活動をしている個人や団体との交流を進める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子育て中の職員が多いため、休みを取る時期が重なることがある。小規模事業所で職員の数に限りがあるので、送迎を頼まれても断ることがある。	就学前のこどもや低学年のこどもを育てている職員は、こどもの病気や学校行事などで休むことが多くなっている。感染症が流行っている時期や、学校行事が行われる時期には、仕事を休まざるを得ないため職員数が減ってしまう。	パート職員の出勤を勤めて、就業時間についても相談するようにする。
2	特別支援学校高等部が地元にないため、登下校に時間がかかる。バスか停から事業所まで時間がかかるため、送迎に多くの時間を取られて活動に使う時間が少なくなってしまう。じっくり活動に集中できる時間が限られてしまう。	放課後の活動は限られたものになっている。個別活動を主にを行い、集団活動にかかる時間が少なくなってしまう。	地元にある特別支援学校小学部と中学部のこどもたちは早く下校できるため、集団活動や個別の活動に使う時間を十分確保して、ゆったりと過ごす時間を持つようにする。近隣の市にある特別支援学校高等部から下校してくるこどもたちは、毎日やることと特別な活動に使う時間を工夫して確保する。長期休みに特別な活動を行うようにする。
3	地元が過疎地域で、人口減少に伴いこどもの数も減っている。そのため、障害児者の減少もみられる。	特別支援学校に入学する児童が減っている。町立小学校や中学校への周知がされていない。	パンフレット配布や各学校への周知を行う。保育園や幼稚園、小学校等との連携をはかる。